

## ⑤ 製薬会社に就職して調理学

〒330 1-1-1 水戸市水戸区水戸 1-1-1 水戸大学薬学部調理学 (株)イーザイ 小竹良彦

〒330 1-1-1 水戸市水戸区水戸 1-1-1 水戸大学薬学部調理学

(工学研究科 昭和62年3月修了)

「今春、製薬会社に就職しました。薬学を卒業したので製薬業界に就職したのではなく、製薬業界に就職したかったので薬学を選び、さらに、研究室として働きたかったので大学院に進みました。

会社では、新規抗癌剤のデザインと有機合成を担当しています。自分の知識や能力を高めると同時に、自分のアイデアを発揮でき、たいへん楽しい職場です。

新しい薬を考えるためには生理学、生化学、分子生物学、薬理学、薬物代謝学や生物物理化学、物理化学などの知識が必要です。これらの分野をひとつおろしフォローできたのは薬学のメリットでしょう。私の場合、不勉強がおおいにたっているのですが、多くの分野をフォローするためか広く浅くといった感が強く、とくに生物物理化学や物理化学では、少し深く首を突っ込むとなかなかついてゆけないのがデメリットではないでしょうか。

有機合成は学生時代から好きで、真剣に、かつ遊びながら（つまり遊び心を大事にしながら）取り組んでいたのが、今も楽しく働いています。

ところが、癌に関する知識では、0からとまではゆきませんが、1からスタートせねばならない状況にあります。講義でも癌の話は少なからず耳にしていたので、かなり理解していたつもりでした。ところが真剣に癌に取り組んでみると、こんなにも奥が深く、複雑であるということに初めて気づきました。これからどんどん知識を吸収したいと思っています。

私の文章をここまで読まれた方のなかには「製薬会社に就職するにはやはり薬学部ではないとダメか」と思った方も何人かいらっ

しゃるでしょう。しかし、そんな訳ではありません。私の会社の場合、今年度入社は約200人ですが、うち薬学卒は約半分です。一般職はもちろんのこと、プロパー（医薬情報担当員）として働く人のなかにも経済学、法学、商学、農学、工学、理学を専攻した者がかなりいます。ただし研究員の場合は、理系に限られてきます。

薬学以外から就職してきた人たちも最初は戸惑っていたようですが、学生時代と全く同じ事をする人は一人もいないので、結局、同じラインからスタートする感じです。製薬業界に興味のある方はどんどん志望してみてもいいのではないでしょうか。

私の会社は研修期間が長く、実際の職場に就いてまだ二か月ほどしか働いていませんが、とにかく楽しいです。自分の性格と希望に合致した職に就けたからだと思います。失敗が許されるのも今のうちとばかり、初めての仕事にも貧欲に、どんどん挑戦しています。

残業で、かなり夜遅くなることもあります。疲れていてもタイムカードを押す時は、何ともいえない充実感があるものです。



筆者前列左